

学会ホームページ <http://jasce.jp>

074号 (2024年1月31日)

目次

年頭のご挨拶

次期大会開催地からのご挨拶

『協同教育実践論文集』創刊について

日本協同教育学会研究倫理綱領
第9回オンライン講座「日本の協
同学習」のご案内

学会ワークショップ

今後の予定 (判明分)

中止になった学会ワークショップ
(報告)

リピート参加もおすすめです

協同教育実践交流会 (ミニ講座)
のご案内

『協同と教育』への投稿募集中

各地の研究会・勉強会

ショートレター(会員からの投稿記事)

年頭のご挨拶

令和6年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、尊い命を落とされた方々に対し衷心より哀悼の意を捧げます。本会会員にも被災された方や被災者と繋がりをお持ちの方が数多くいらっしゃるのではないで

しょうか。未だ被害の全容を把握できず、多数の安否不明の方がおられ、3万人近い方々が厳しい環境での避難生活を余儀なくされていると伺っています。被災者救助・被災地支援に全力を挙げておられる関係の皆様にご敬意を表するとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りします。

昨秋、本学会は対面による全国大会を3年ぶりに開催することができました。研究発表、実践報告、ワークショップやラウンドテーブルの件数、そして大会参加者数ともコロナ以前の水準に回復し、安堵しているところです。ご尽力頂いた比治山大学の佐々木淳先生をはじめ大会実行委員会の皆様、ならびにご参加頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。今秋10月26日(土)・27日(日)には中村学園大学(福岡市)にて第20回大会を開催します。本学会理事で研修委員長の野上俊一先生を中心にご尽力頂いています。何卒ご予定ください。

さて、ちょうど10年前の2014年11月、現行学習指導要領の改訂が中教審に諮問されました。仮に10年ごとの改訂とすれば、今後2～3年の

うちに次期学習指導要領をめぐる議論が本格化します。現行学習指導要領の改訂・実施は、2014年に中教審に諮問→2015年に論点整理→2016年に審議まとめ・答申→2017年度に周知徹底→2018～2019年度を移行期間とし、2020年度に小学校、2021年度に中学校で全面実施、2022年度に高等学校で年次進行による実施が始まり、2024年度に完成年度を迎える、という経緯を辿っています。10年のうち、すくなく見積もっても6年近くは現行学習指導要領の理念の実現に奔走し、その一方で次代の学校教育を描きつつ日々の実践に取り組んでいることとなります。

「生きる力」の正常進化、「コンテンツ・ベースからコンピテンシー・ベースへ」、「アクティブ・ラーニング」、「主体的、対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学び」、「令和の日本型学校教育」等々、次代の学校教育をリードする概念が生まれ、日々の学習指導や授業実践に大きな影響を及ぼしています。国際的にも共有されつつある「21世紀型学力」を着実に育むため、教師主導による知識伝達型の一斉

JASCE

指導や、事实的知識・手続的スキルの習得を中心とした暗記・再生型の学力観の克服をめざして、校内研修を中心とする授業改善に多くの学校が取り組み、実績を積み重ねています。一方、大学入試における総合型選抜や学校推薦型選抜の拡充に伴い、高校教育の現場では「受験対応型の探究学習指導」が一定の「教材」や「パッケージ」のもとに「普及」し、生徒の非認知能力も含めた資質・能力の可視化と数値化が精緻に進んでいます。本来ならば、知識偏重の受験学力に依存する学校の選抜機能を見直し、「生涯学び続けるための資質・能力」を豊かに育むはずの「探究学習」が、やはり日本的な選抜・受験競争文化に回収されるというジレンマに陥ってはいないでしょうか。

本学会はあくまでも学術的な立場から「協同学習の形骸化」や「小集団活動ゆえに生じる小さな人間関係の悪化」、「学習者主体の授業の必要・必然とその陥穽」等、現実の課題や困難を踏まえ、確かな実践に基づく「協同の理念」の共有と実現に取り組んでいます。確実に言えることは、次の学習指導要領が適用開始となる頃の小学1学生の児童数は、現在よりも25万人近く減少し、70万人程度になっているだろうということです。加速度的に進む少子化とグローバル化とAI化のなかで、次代を担う子どもたちにどのような教育が必要なのか、学習者の意欲と主体性を育む教育のありかたをめぐる真摯な議論が求められます。

本年も会員の皆様の実践ならびに研究のご発展をお祈りします。本学会が創造的で活発な交流の場となるよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

2024年1月

日本協同教育学会 会長 高旗浩志

次期大会開催地からのご挨拶

今年度の第20回大会は10月26日(土)～27日(日)に中村学園大学(福岡市)で開催いたします。九州での開催は12回大会(久留米大学)以来です。20回という節目の本大会が、20年の歴史とそれに続く10年20年をつないでいく場になるよう準備を進めて参ります。

中村学園大学では教育研究の方針を「理論と実際の統合を図り、学問と生活の融合を重んじ教育と研究に努める」と建学の精神に掲げています。協同教育の理論と実際をつなぐことは、これからの協同教育の展開や浸透においても必要なことでしょう。そのために、第20回大会では、協同教育に関心を持つ研究者や実践家が一堂に会し、そこでつながりから新たな研究や実践の芽が生まれることを期待しております。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

第20回大会実行委員会 野上俊一

『協同教育実践論文集』創刊について

機関誌『協同と教育』に加え、新たに日本協同教育学会『協同教育実践論文集』を創刊することが、2023

年11月4日の第19回大会において承認されました。協同教育実践論文集の概要についてご説明します。詳細は、学会HPに掲載する投稿規程でご確認ください。

①『協同教育実践論文集』は、協同教育、協同学習にかかわる実践を広く公開し、その実践の成果を次世代に継承していくことを目的とする。

② 主に授業実践・教育実践(看護教育の実践等も含む)に関する内容とする。協同教育の普及や発展に資する可能性を持ち、また多くの教育実践者にとって参考となる実践論文等を掲載する。

③ ISSN(国際標準逐次刊行物番号)およびISBNを付した査読付きの「学術雑誌」として原則年1回発行する。

④ 投稿の資格は、連名執筆者を含め、原則として本学会員に限る。

⑤ 原則として世話人制をとり、世話人が執筆のサポートを行う。投稿を希望する会員は事前に学会理事または実践論文集編集委員会に相談することが望ましい。

今後公表される投稿規程をご覧ください。

日本協同教育学会研究倫理綱領

第19回大会総会(2023年11月4日)において、協同教育の実践とその研究を発展させるための指針として日本協同教育学会研究倫理綱領を制定し、会員の研究倫理に対する認識の深化を図ることを決定しました。以下、その全文を掲載いたします。

JASCE

日本協同教育学会研究倫理綱領

(2023年11月4日 第19回大会総会決定)

前文

日本協同教育学会は、互恵的な信頼関係を基盤とした協同に基づく教育・学習環境の創造・実践普及を通し、民主的で公正な社会の形成と発展を目指している。本学会の成果を会員相互に知的財産として共有するとともに、学校や社会に発信していく責務がある。協同教育を創造的に研究・実践し、普及する本学会の活動に際し、すべての人の基本的人権や尊厳に配慮し、民主的で公正な活動環境のもとで協同教育の実践とその研究を発展させるための指針として日本協同教育学会倫理綱領を定め、会員の研究倫理に対する認識の深化を図ることとする。

研究倫理綱領

1. (綱領の順守)

会員は、すべての人の基本的人権や尊厳に配慮し、本学会の会則及び本研究倫理綱領を遵守する。

2. (公平・公正な活動)

会員は、協同教育及び協同教育研究の専門家として、互恵的な信頼関係を基盤とした協同に基づく研究や教育・学習環境の創造、実践普及にあたり、科学的かつ学術的な根拠に基づいて、公平で公正な専門的判断と議論を行う。

3. (倫理的な問題の防止と対処)

会員は、協同教育に関する研究や教育・学習環境の創造、実践普及などすべての学会諸活動において、起こりうる倫理的問題を想定し、それらの防止に努める。

1) 学会諸活動において、すべての人の基本的人権や尊厳、価値や社会の多様性を尊重し、あらゆる偏見や差別を積極的に否定する。

2) 学術的・実践的な研究においては、真理の探究と論証に努め、情報やデータ、調査結果などの改竄・捏造・偽造、当該研究者の了解もしくは適切

な表示なく流用するなどの研究不正行為を行わない。

3) 二重投稿、ゲスト・オーサーシップ、ギフト・オーサーシップ、ゴースト・オーサーシップなど、発表倫理に反する行為をしてはならない。

4) 研究資金を不正に利用してはならない。

5) 研究活動において知り得た情報を不当に利用してはならず、秘密保持の義務を負う。

6) 人を対象とした研究活動にあたっては、その過程全般、成果の公表方法、終了後の対応等について対象者（もしくは保護者）や協力者に対して十分に説明し、対象者あるいはその保護者もしくは所属機関の長から研究に対する同意を得て実施する。

7) 研究の遂行および研究成果の発表にあたっては、対象者（もしくは保護者）や協力者の利益を損なってはならない。発表された研究成果は、発表者の知的財産として適正に扱われなければならない。また、利益相反による弊害が生じないように注意しなければならない。

4. (科学者の行動規範)

会員は、協同教育を研究・実践し、普及する活動を行う際には、日本協同教育学会研究倫理綱領に従うとともに、日本学術会議声明「科学者の行動規範—改訂版—」(2013年1月25日)を理解してこれを行うものとする。

5. (学会の責任)

日本協同教育学会は、この研究倫理綱領を徹底するとともに、継続して研究倫理環境の整備に努める。

附則

1. この研究倫理綱領は、2023年11月3日開催の理事会を経て、2023年11月4日の第19回大会総会において制定し、同日から施行する。

2. 研究倫理綱領の改定は、理事会の議を経て、総会での承認を得るものとする。

JASCE

第9回オンライン講座「日本の協同学習」のご案内

2月10日(土)14時から、第9回オンライン講座「日本の協同学習」を開催いたします。この講座は、学会設立15周年を記念して会員の皆さまに配本した『日本の協同学習』(2019, ナカニシヤ出版)をテキストとして1章ずつ学ぶものです。第9回は山口県立大学教授の甲原定房先生を講師としてお迎えし、第8章「協同を測る」のご講話とご講話に基づく参加者間の交流を予定しています。学会ホームページから参加の申し込みをされた方にZoomのアドレスを送付いたします。テキストをご準備いただければ、未会員の皆様の参加も大歓迎です。参加費は無料です。皆様のご参加をお待ちしております。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

学会ワークショップ、リポート参加もおすすめです

研修委員会の野上俊一です。会員の皆様は学会の認定ワークショップのベーシックとアドバンスに参加されたことはありますか? ベーシックは協同学習の考え方や技法を本格的に勉強したいと考える初学者に最適です。アドバンスはベーシックを修了し、研究主任や指導教諭等、校内の授業改善等を牽引する立場にあり、協同学習を推進したいというニーズをお持ちの方に最適なワークショップです(詳細は学会HP)。それぞれのワークショップは学会認定講師がテキストに基づいて実施しています(表1)。

これらのワークショップはリポート参加費が設定されており、何回で

学会ワークショップ 今後の予定(判明分)

<ベーシック>

3月9日(土)、10日(日)【主催】 ※開催確定しました。

会場: 創価大学(東京都八王子市)

講師: 太田昌宏

<アドバンス>

3月9日(土)、10日(日)【主催】 ※開催確定しました。

会場: 創価大学(東京都八王子市)

講師: 伏野久美子

<マスター>

3月9日(土)、10日(日)【主催】 ※定員に達しました。

会場: 創価大学(東京都八王子市)

講師: 杉江修治・石田裕久・安永 悟・関田一彦

最新情報、参加のお申し込みは学会HP (<https://jasce.jp/1031workshop.php>) からお願いいたします。

中止になった学会ワークショップ(報告)

以下のワークショップは最小催行人数に達しなかったため、残念ながら中止となりました。

<アドバンス>

2023年12月9日(土)、10日(日)【主催】

会場: 東海学園大学名古屋キャンパス(名古屋市天白区)

講師: 水野正朗・石田裕久

表1 ワークショップで扱う主な内容

ベーシック(初級)	アドバンス(中級)
協同学習の考え方 協同学習とグループ学習 協同と競争 互恵的な協力関係づくり グループの学びに対する個人の責任	協同学習の考え方 協同学習と評価 協同のための社会的技能 学習者の自立と協同学習

も参加できることをご存知でしょうか。私は昨年11月に8年ぶり3回目のベーシックを受講しました。久しぶりの受講でしたが、自分自身の

協同学習の考え方や技法に関する理解のあやふやな部分を発見したり、授業等で説明している内容が大きく誤ってはいないことを確認でき

JASCE

たりとリピート参加する価値を実感しました。同じベーシックでも担当される講師によってワークショップの中で体験するアクティビティや講話のエピソードに違いがあるため、新たな実践のアイデア等を手に入れられます。そして何よりも、協同学習に関心を持つ参加者のみなさんとアクティビティを通して日々の教育実践とその工夫や悩みを共に考えたことは、私に仲間がいる嬉しさとこれからの実践への勇気を与えてくれました。

今までワークショップに参加したことがない方はもちろん、過去に参加されたことがある方も久しぶりにワークショップに参加してみませんか。新たな気づきが必ず生まれること請け合いです。お申し込みをお待ちしております！

協同教育実践交流会（ミニ講座）のご案内

3月9日と10日に創価大学にて「協同教育実践交流会（ミニ講座）」を開催します(表2)。協同教育や協同学習の多様なトピックに関する90分のミニ講座が2日間で5つ開かれます。1つのプログラムから気軽に参加でき、最大4つのセッションまで受講できます。何セッション受講しても会員の参加費は無料です(一般は1000円)。ベーシックやアドバンスに参加したいけれど3月9日と10日のうち1日(半日)しか空いていない方にとっておすすめの企画です。詳細情報や参加のお申し込みについては、学会HPからお願いいたします。

研修委員会 (kenshu@jasce.jp)

表2 ミニ講座

日時	講座タイトル	講師
3/9 (土) 13:00 ~ 14:30	どうやればコレクティブ・エフィカシーを育むことができるか、共に考え・交流しよう	原田 信之 (名古屋市立大学)
3/9 (土) 15:00 ~ 16:30	みんなでわかる授業とはー授業分析入門1ー	水野 正朗 (東海学園大学)
	振り返り中心の大学授業実践紹介	関田 一彦 (創価大学)
3/10 (日) 10:00 ~ 11:30	グループを超えたチームフローを生む互恵集団を測る、育てる試み	最首 昌和 (前公立中学校)
3/10 (日) 13:15 ~ 14:45	協働的な学習環境づくりに活かす解決志向アプローチ	佐瀬 竜一 (和洋女子大学)

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

各地の研究會・勉強會

(名古屋・東海地域)

名古屋・協同の学びをつくる研究会
◇2024年2月例会を、2月3日(土)午後1時30分から名古屋大学教育学部・共通講義棟2階第3講義室で開催します。テーマは「学校教員による教育学研究ー大学院前期博士課程で学ぶー」。発表者は、学校教員として勤務しつつ、名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士前期課程に入学し、修士論文を書き上げた2名の先生です。

出井伸宏先生(名古屋市立八熊小

学校校長)「省察的实践による社会科若手教師の専門性発達に関する実証的研究」

鈴木正幸先生(元小中学校教諭)「授業における子どもの思考の多様性に応ずる教師の意思決定」

学校教員が大学院で教育について研究することの意義、研究で得られた成果と課題について具体的に語っていただき、学校教員による教育学研究(授業研究)の推進について幅広く意見交換をしたいと思います。

連絡先: 水野正朗(東海学園大学 mizuno-ma@tokaigakuen-u.ac.jp)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会
◇第50回「協同学習を用いた看護教育研究会」を2023年11月18日(土)13:30~17:00までグランフロント大阪アクティブスタジオとZoomでのハイブリッドで開催しました。会場参加者は12名、Zoom参加者は13名でした。今回が開催50回目ということもあり、テーマを「協

JASCE

同学習の継続的実践と成長を目指して!」としました。創価大学大学院 大屋まり子氏による話題提供の後、参加者が持ち寄った協同学習の体験を元に「うまくいった」「うまくいかなかった」要因について話し合いました。その結果、今後の実践につながる多くのヒントを得ることができました。

研究会後のアンケートでは「大屋先生から相互性の具体的な考え方と実践例をまとめていく研究プロセスを発表していただき、研究には縁遠い私にはとても新鮮だった」「いろいろな方の成功・失敗事例とその要因を伺い、自分では気づかなかった沢山のヒントをもらうことができた」「(学生に)プラスのフィードバックをすることが学生の協同学習への参加を促すことがわかって、普段の自分の悩みが解決できた」「うまくいかなかった事例をグループで検討したことで、課題と工夫点をより明確にできた」などの感想や気づきを寄せていただきました。(文責: 牧野典子・織田千賀子・小八重和子) ◇第51回のテーマは「学習者にとっての『協同』を手がかりに協同学習を考える」で、1月20日(土) 13:30～17:00までグランフロント大阪アクティブスタジオで開催しました。詳細は次号のニュースレターでご報告させていただきます。

◇第52回は3月17日(日) 13:30～17:00に対面での開催を予定しています。2月半ばにご案内を配信させていただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

連絡先: 研究会代表 緒方巧 (t-ogata@baika.ac.jp)

(岡山・中四国地域) 協同学習研究会

◇昨年12月2日(土)に第3回の研究会を開催しました。広島市立美鈴が丘高等学校の田中智大先生による話題提供で、日本史Bの「平安時代初期の政治改革」を題材とする実践でした。私たちの研究会では、実際の授業映像を視聴することを大切にしていますが、同教材・同内容による昨年度と今年度の授業比較に取り組んだのは初めてのことでした。昨年度の反省を踏まえ、田中先生は①「準備学習」で個の自力解決を促し、教科書の記述のどこが解りにくいかを生徒自身が表現してから授業に臨む、②歴史の「学び方」を学び、概念的知識の習得を目指す、③「自ら学ぶ取る」ために、教師による解説ではなく、生徒自身が資料を読解して本時の学習課題に対する解答を自分の言葉で表現できることをめざす、という3点をめざした改善を加えておられました。極めて具体的な方法に基づく改善であり、また授業後の定期試験の成績の比較分析も行い、個々の生徒の成績の変動を細やかに解釈しつつ、そこに顕れた課題を自らの実践の省察に生かすなど、その実証性も含めて大いに参考になる実践報告を頂きました。今回もハイフレックスでの開催でしたが、オンライン参加19名、対面参加16名と、年末かつ学期末の多忙な時期にもかかわらず、多くの皆様にご参加頂きました。

◇次回は本年3月2日(土)午後2時よりハイフレックスにて開催します。話題提供者は鳥取県三朝町立三朝中学校の宍戸聖人先生です。中学3年生の社会科(公民分野)の授業

を動画にて公開して頂きます。生徒達がタブレット端末を十全に使いこなし、自ら協同して学び取っていく授業を実現しておられます。関心をお持ちの方は私までメールにてご連絡ください。参加方法等をご案内します。なお、既に当方で連絡先を把握している方には、2月に入ってから詳細をご案内します。

連絡先: 高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター takahata@okayama-u.ac.jp)

(九州地域)

第59回「協同教育研究会」

◇九州地区で開催しています研究会の準備が整いましたのでご案内申し上げます。研究会の後、久しぶりに飲食を伴う情報交換会も開催します。皆様のご参加をお待ちしています。参加を希望される方は、協同教育研究所のホームページから申込をお願いします。

- 1.日時: 研究会・2月17日(土) 14時00分～17時20分(情報交換会・18時00分～20時00分)
- 2.場所: 久留米大学御井本館3階13BC教室
- 3.参加資格: 協同教育(学習)および「協同」一般に関心のある方
- 4.参加申込: 協同教育研究所「結風」のHP (<http://yuikaji.me/>)の「イベント参加受付」
- 5.研究会のテーマ: 「LTD授業モデルによるAL型授業の質向上」
- 6.研究会の内容
 - (1) 挨拶・導入
 - a.担当: 安永 悟(久留米大学・文学部)
 - b.内容: ①挨拶と学びの場づくり
 - ②LTD授業モデルの説明

JASCE

(2) 実践報告1「協同学習による講義・実習への初めてのチャレンジ」

a. 担当：増田 宏 (久留米大学・医学部・環境医学講座)

b. 内容：「にわか協同学習挑戦者」としてはじめて取り組んだ協同学習の授業実践について報告します。

(3) 実践報告2「LTD授業モデルによる授業開発とその成果」

a. 担当：安永 悟・小松誠和 (久留米大学・医学部・免疫学講座) 知念榮子・大城明枝・藤田裕美子 (浦添看護学校)

b. 内容：①浦添看護学校での実践 (安永・知念・大城・藤田) …協同に基づく探究活動 (協同探究活動) を組み込んだ授業内容とその成果について報告します。②久留米大学医学科における実践 (小松) …本報告ではLTDに依拠した問題基盤型学習法 (LTD型PBL) の成果と問題点について報告します。

(4) 全体交流

7. 情報交換会 (懇親会) のお知らせ
参加希望者は上記「4. 参加申込」と合わせて2月9日 (金) までに、協同教育研究所「結風」のHPから申し込んでください。

場所：久留米大学御井学舎学生会館2階・レストラン「櫻 (けやき)」
時間：18時00分～20時00分
会費：4,500円

問合せ先：協同教育研究所「結風」 (office@yasunaga.me)

(全地域)

全国看図アプローチ研究会

◇「きゅうちゃん」デジタル絵本プロジェクトの紹介です。

「きゅうちゃん」は看図アプローチ協同学習促進ツールです。これまで

に、様々な「きゅうちゃん活用法」が考案されています。その一部は、日本協同教育学会大会や『協同と教育』『全国看図アプローチ研究会研究誌』等で発表されています。

今回紹介するのは、学生さんたちと教員が協同して制作した「きゅうちゃんデジタル絵本」です。これまでに20作品制作されています。作品はすべて、全国看図アプローチ研究会ホームページ及びYouTubeで公開しています。新作2編をアップしましたので紹介します。

(1) おさかな 原作「可愛くなりたい」
大学生になったきゅうちゃん。「可愛い」を求めて奔走します。作者も「渾身の」と称するきゅうちゃんのプリティーで華麗な変身を見届けてください。

<https://youtu.be/o5LTdfOHB64>

(2) 塩田心凜 原作「永遠の絆」
1日だけ人間になった「天使」のきゅうちゃん。「ひと」とのつながりが心にしみるハートウォーミングなストーリー!

<https://youtu.be/0A2yl57vfnQ>

(3) このほかにも「きゅうちゃん看護物語」も公開しています。これは藤田医科大学の看護の授業成果を絵本作品化したものです。新しいPBLの方法としても注目されています。ぜひご視聴ください。

石川りの・鈴木多映・西田 瞳・村上真彩 原作【きゅうちゃん看護物語】Part.1「きゅうちゃん、直腸がんになる」

<https://youtu.be/dPRaq1CvRNq>

連絡先：研究会事務局長 石田ゆき (kanzu.approach.office@gmail.com)

新たな研究会の発足について：協同学習を用いた看護教育研究会

◇「協同学習を用いた看護教育研究会」は、2014年9月から大阪を拠点に主として看護系 (大学・大学校・専門学校) の教員・臨床の看護師・保健師・助産師・養護教諭など) の方々を対象に、コロナ禍も途絶えることなく開催してまいりました。その後、2023年5月以降はアフターコロナの社会の現状を踏まえ、参加希望の方々が継続して参加されやすい研究会の運営について検討を重ねてまいりました。その結果、本研究会に続き、新たに沖縄、愛知、東京で「協同学習を用いた看護教育研究会」を発足したいとの声が挙がりました。

今後は、各研究会が独立して活動しつつ、連携・切磋琢磨しながら、全国の看護系の方々の「協同学習の実践と研究」に貢献できるよう運営に努めて参ります。大阪で開催してきた「協同学習を用いた看護教育研究会」は、今後も現在の体制で開催して参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

新たな各研究会の①名称、②代表・副代表と連絡先アドレス、③第1回目の開催日・会場をご紹介します。

【沖縄】

①名称：「協同学習を用いた看護教育研究会 in Okinawa」

②代表：知念榮子先生
chinen_e@sho-oh.ac.jp

③開催：3月23日 (土) 午後
会場：浦添看護学校

【愛知】

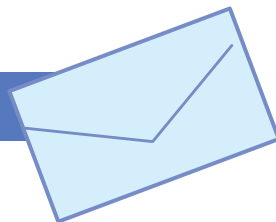
①名称：「協同学習を用いた看護教育研究会 in Aichi」

②代表：前田洋子先生
yuko_maeda@pref.aichi.lg.jp
副代表：大村ゆかり先生
yukari-omura-2024@outlook.jp
企画運営委員：プラット貴恵先生
坂本真希先生

③開催：6月15日（土）
会場：愛知県立総合看護専門学校
【東京】
①名称：「協同学習を用いた看護教育研究会 in Tokyo」

②代表：添田百合子先生
ysoeda@soka-u.jp
副代表：武信真理子先生
takenobu@ks.kyorin-u.ac.jp
③開催：3月16日（土）午後
会場：創価大学
以上 文責：緒方 巧

ショートレター 会員からの投稿記事



学び合い苦手学生

専門学校生や大学生を対象とした協同による授業づくりを続けています。この実践を通して、多くの学生にとって仲間と共に学び合うことが有効であることは繰り返し確認してきました。一方で、仲間と共に学び合うことは想像以上に難しいことであり、共に学び合うことを苦手に思う学生がいることも知っています。彼らとどのように向き合い教育指導すればよいのか。協同による授業づくりをはじめて以来、常に頭を悩ませてきた問題です。この問題に関して最近注目している対話を手がかりに雑感を述べることにします。

対話を定義することは難しい作業です。ここでは、対話とは「立場や意見を異にする人と話し合い、互いに納得できる合意点を見つけること」であり「自分と相手を成長させ、人と人をつなぎ、ひいては民主的な社会全体を支えるものである」とする哲学者・山口裕之さん(2016, p.1)の定義を引いておきます。これは協同教育を主導している私たちにも親和性の高い定義といえます。私自身、授業づくりにおいて「LTD話し合い学習法」や「対話中心授業」という言葉を使っています。そこに含まれている「話し合い」や「対話」は、まさに山口さんのいう対話と同義語といえます。

学び合い苦手学生の中には対話に問題を抱える学生も少なからずいます。そもそも「立場や意見を異にする人」との交流を学生は避ける傾向にあります。そのような人と真剣に話し合った経験は少なく、ましてや対話により「合意点を見つけたり」「自分と相手を成長させ」るなどを意識したことが少ない学生もいます。さらには自分自身の想いを自分の言葉で自由に表現できない学生、そのような想いを他者と共有するという経験が少ない学生も含まれているように感じます。

そのような学び合い苦手学生も含めて、私の授業では学生同士の基本的信頼感を高め、支持的風土を醸成し、学び合える場づくりを丁寧に行っています(安永,2019)。そこでは、LTD授業モデルに沿って、対話の基本スキルである傾聴とミラーリングから始めて、ラウンドロビンや特派員、ジグソー学習法、LTD話し合い学習法といった汎用性の高い協同学習の基本技法を体系的かつ重層的に指導しています。同時に、これらの技法に魂を吹き込む「協同の精神」の意義を説き、ことあるごとにその効用を確認する機会を設けています。

このような実践を通してでもなおかつ仲間との学び合いに乗ってこない学生や乗ってこれない学生がい

ます。彼らに出会うたびに、彼らの背景には何があるのか、疑問は募るばかりでした。そこで、授業の振り返りに書かれた学生のコメントや学び合い苦手学生に対するインタビュー(平上・安永,2023)を手がかりに、学生の視点から、再度、私自身の実践を振り返ってきました。そのなかで、私の授業には私自身が気づいていない「枠」があるのではないかと思いはじめました。つまり、長年の経験を通して創り上げた協同を基盤とした授業は、学生にとって好ましい教育指導法であるという私の想いが、いつしか私と学生との間に亀裂を生み出していたのではないか。「協同はいいものである」という私の前提を学生が受け入れることは当然であるといった私の想いが、もともと学び合いを苦手とする学生の心をさらに閉ざしている可能性があるのではないかと感じました。

そのきっかけとなったのが梶谷真司さん(2018, pp.52-54)の「語る自由を奪う教育」でした。梶谷さんによれば、学校は自由に考え話することができる場ではない。学校は「正しいこと」「よいこと」「先生の意に沿うこと」しか言ってはならない場所であり、『言いたいことを言わない』のは、しつと教育の見事な成果である」と指摘しています。協同

学習を基盤とした私の授業づくりでは、自分の理解や考えを自分の言葉で自由に表現し発言できる場づくり、つまり支持的風土の醸成が大切と考え、さまざまな手立てを打ってきました。しかし、梶谷さんの言葉に出会って、本当に支持的風土が培われていたのか疑問に思うようになりました。確かに、指導者としての私にできる手立ては講じてきました。しかし、そこにある「協同はいいものである」という大前提が、学生の想いに蓋をして、自分の想いを自分の言葉で語るという「語る自由」を学生から奪ってきたのではないかと考えるようになりました。

「語る自由を奪う教育」が明らかになれば、「語る自由を育てる教育」も見えてきます。その視点から私自身の実践も変えることができます。本来の意味で、親や教師、学校や社会の価値観に縛られることなく、自分の想いを自分の言葉で素直に語れる場を提供することにより、仲間と学び合える学生の育成につながりたいと考えています。

この授業改善に役立ちそうな活動の一つに「哲学対話」があることを知りました。哲学対話とは「考えることを“身をもって”学ぶことであ」り、「思考力や判断力など知的能力の育成」に加えて「自ら考えて判断する主体性と責任感、自分の考えを言葉で表現し、他者の意見を聞くコミュニケーション能力、お互いに共感し、相手を尊重し、自分と他者の違いを受けとめる寛容さなど、さまざまな資質」を育むことを目的にしています(梶谷,2018,p.31)。哲学対話が育もうとしているこれらの能力は、まさに協同による学び合いに必要な能力といえます。学び合い苦手学生にとって、その苦手意識を克服し、学び合う喜びを体感しても

らうために哲学対話の考え方や技法が役立つのではないかと考えています。

この哲学対話は、自分の想いを自分の言葉で主体的に語る経験を増やす協同教育の実践と捉えることもできます。詳細は専門書に譲りますが、哲学対話への参加者に制約はありません。子供から大人まで誰でも参加できます。人数は十数名程度まで大丈夫です。考える内容も参加者で決めます。参加者はリラックスできる場のなかで自由に考え、語り合います。この哲学対話には「語る自由を育てる」仕掛けとして次に示す8つのルールが決められています(梶谷, 2018, p.47)。

①何を言ってもいい。②人の言うことに対して否定的な態度をとらない。③発言せず、ただ聞いているだけでもいい。④お互いに問いかけるようにする。⑤知識でなく、自分の経験にそくして話す。⑥話がまとまらなくてもいい。⑦意見が変わってもいい。⑧分からなくてもいい。

これらのルールは哲学対話の基本事項です。実践家によっては、幾つかのルールを加えることもあります。学生が主体となった語り場(一種の哲学対話)を実践してきた平上久美子さん達は「入退室は自由、話すのも自由、話を振られた際にはパスをしてもかまわない」、そして対話で「話した内容はこの場限りとし他に漏らさない」というというルールを加えています(平上ら,2023)。

最近、協同学習に関心を持つ仲間を募って初めて哲学対話を試みしました(第58回 協同教育研究会, 2023年9月開催)。そこでは、自分の想いや考えを、何の制約もなく、自分の言葉で自由に表すことの難しさを体感できました。対話とは「こうあるべき」という協同教育を専門

としている私自身にある暗黙裡の「枠」が邪魔をして、本心をさらけ出すことにブレーキがかかる感じを覚えました。同時に、他者の発言の背後に見え隠れする「枠」が気になり、何らかの「枠」に縛られていると思える他者の発言にも違和感を覚えました。このような感覚が、学び合い苦手学生の感覚とどれほど似ているか定かではありません。しかし、彼らの世界に半歩ほど近づけたのではないかと感じています。

このような経験をとおして、学び合い苦手学生も含めてた受講生全員が主体的に学び合える関係性の構築を目指した協同による授業づくりを、これからも続けていきたいと思っています。今後、私自身と私の実践がどのように変化し、私の授業に参加した学生にどのような変化成長が認められるのか、実に楽しみです。

文献

平上久美子・安永悟(2023). グループ学習に苦手意識を持った大学生の体験過程 - 苦手意識の形成と克服のプロセス-. 協同と教育, 18, 15-28.

平上久美子・比嘉真子・新垣凜・安永悟(2023). 語り合いと対話: 語れない想いのBar♪@協同教育学会 日本協同教育学会第19回全国大会(於・比治山大学) 要旨集, 29-30.

梶谷真司(2018). 考えるとはどういうことか: 0歳から100歳までの哲学入門 幻冬舎

山口裕之(2016). 人をつなぐ対話の技術 日本実業出版社

安永悟(2019). 授業を活性化するLTD 医学書院

(久留米大学 安永 悟)